

## 島根県におけるパーキンソン病 初期スクリーニング事業の成果

たかもと まさこ<sup>1)</sup> こばやし しょうたい<sup>2)</sup> か も なお み  
高 本 雅 子<sup>1)</sup> 小 林 祥 泰<sup>2)</sup> 加 茂 尚 美<sup>3)</sup>  
いと が ひろ ゆき<sup>4)</sup> あ だち よし き<sup>5)</sup> いり え ひで き<sup>6)</sup>  
糸 賀 浩 之<sup>4)</sup> 足 立 芳 樹<sup>5)</sup> 入 江 秀 樹<sup>6)</sup>

キーワード：パーキンソン病，島根県，スクリーニング，  
かかりつけ医，難病医療連絡協議会

### 要 旨

神経系特定疾患の中で最も多いパーキンソン病は高齢化と共に増加しており，早期診断，早期治療の必要性が強調されている。島根県難病医療連絡協議会では住民およびかかりつけ医に特徴的の症状を認知して貰うためポスター等による啓発と，初期診断に役立つ簡単なスクリーニングシートを作成し，県医師会等の協力のもと，医療従事者の研修会も行うことでパーキンソン病の早期発見・早期支援を行うことを目的として本事業を行った。その結果，しまね難病相談支援センターにおけるパーキンソン病関連の相談件数が3倍に増加，パーキンソン病関連特定疾患の新規申請件数も過去3年の平均の2倍と増加した。これらの結果は本事業がパーキンソン病のスクリーニングに有効であったことを示しており，今後もこの成果が活かされることが望まれる。

### はじめに

パーキンソン病は，有病率10万人あたり，約100人と，厚生労働省の特定疾患治療研究事業の

対象疾患の中でも対象者が比較的多い病気である。島根県においても特定疾患医療受給者証交付件数を疾患別にみると，パーキンソン病の受給者数は816名と最も多く，その内の4人に1人（198人）が重症患者であり，受給者数に対しての重症度の割合も高い。（平成19年3月末現在）

しかし，パーキンソン病は確定診断のための検査はなく，特徴的な神経所見が有力な診断の根拠となるが，症状を老化現象などと捉え受診が遅くなる状況もある。

そこで，ポスター等によりパーキンソン病を住

Masako TAKAMOTO et al.

- 1) 元しまね難病相談支援センター難病医療専門員
  - 2) 島根県難病医療連絡協議会長・島根大学医学部附属病院長
  - 3) 元島根県健康福祉部健康推進課母子難病支援グループリーダー
  - 4) しまね難病相談支援センター長
  - 5) 島根県難病医療連絡協議会平成20年度難病医療支援システム小委員会委員長・国立病院機構松江医療センター神経内科医長
  - 6) 島根県難病医療連絡協議会平成19年度難病医療支援システム小委員会委員長・安来市立病院神経内科部長
- 連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1